



YOU ARE
THE KEY

あなたが
鍵です



会長 佐藤順治 幹事 秋野 忠 クラブ専任 吉野 勲 職業専任 板垣広志 社会専任 小池繁治 国際専任 高橋良士 青少年専任 丹下誠四郎

出席報告：会員 80 (75)名 出席 57名 出席率 76.00% 前回出席率 70.57% 修正出席 55名 確定出席率 73.33%

会員スピーチ

ヤラセの構造

坂本耕一君

1985年もあと1週間で終了です。一年のしめくくりのスピーチに指名いただいたことを光栄に思います。

今年はやラセの問題など、行き過ぎた取材や興味本位な報道がバクコして、放送のありかたが大きな社会問題として続出しましたので、「ヤラセの構造」というテーマで話をさせていただきたいと思います。

6月に、お年寄りの大事な財産をねらった豊田商事事件がありました。金の現物を渡さずに、預り証だけを渡して、お年寄りの財産をまきあげてしまう悪徳商法で、全国何万人もの被害者の出た事件ですが、その豊田商事の永野会長がマスコミの目の前で惨殺されました。社長のやり方をけしからんと怒った男が、いきなり窓を蹴破って押し入り、ナイフでめった突きにして殺した。その一部始終をNHKはじめ10社をこえる放送局や新聞社のカメラマンが撮影し、生々しい殺人の模様を報道したのです。

このニュースがテレビに映し出されると、あまりにショッキングで、放送直後から非難がごうごうと起こり、「何故、こんな残酷なシーンを放送するのか」、「何故、カメラマンは止めなかったのか」、「カメラマンは社会常識のない人種なのか」と抗議が殺到しました。

7月には、日本航空の東京発大阪行きのジャンボ

機が群馬・長野県境の山中に墜落し、4人の奇跡的な生存者がいたものの、500余人が亡くなりました。事故現場や遺体収容所にマスコミがどっと押し掛け捜索や救出活動の邪魔になりました。

9月、いわゆるロス疑惑とマスコミが騒いだ三浦和義が逮捕されるまで、警察の捜査を上回るマスコミの、とくに民放TV各局の執拗な犯人捜しの追求がブラウン管を飾り、三浦と関係のあった2人の女性が殺された犯罪の種明かしゲームがくりひろげられました。三浦の巧妙な奇人ぶりのキャラクターもあって、犯罪の謎がすぐくセンセーショナルに、意欲的に、警察の捜査より先行して、関係者の証言や現場で興味深く展開されました。その嵐の前にはプライバシーや人権という個人の権利が、<皆でやれば恐くない>式に著しく侵害され、無視することに慣らされつつあります。マスコミが三浦を裁くことが出来るのでしょうか？

そして10月、テレビ朝日のアフタヌーン・ショーでのヤラセ事件が起こりました。東京多摩の暴走族が少女たちにリンチするシーンを、プロデューサーが知り合いの暴走族のリーダーにリンチを再現するように頼み、そそのかし、煽って、それからお礼に焼き肉を馳走して、いかにも事実のように撮って放送した。豊田商事の永野社長が惨殺されるのを偶然

あなたが鍵です — 会員増強にご協力を!

庄内空港の建設を推進しましょう

に撮影したのとは全く違う、放送をつくる側であるプロデューサーの作為で再現した番組です。

子供の非行やイジメや暴力事件が社会問題となっている時、このヤラセ番組は社会や他のマスコミから一斉に批判を受け、担当のプロデューサーは警察に逮捕され、会社をクビになり、長い間続いていたアフタヌーン・ショーが中止され、社長がテレビに出て視聴者にお詫びするという放送界に汚点を残すことになりました。

ところでこのヤラセという方法は、報道、とくにテレビでは、ごくあたりまえのことになっているのでしょうか。それとも例外なのでしょう。率直に言って、例外ではなく、よく使われる表現方法です。

ニュースは、実際に起こっていることをストレートに撮影し、コンパクトに編集するもので、カメラマンの作為的なヤラセはありません。事件事故の類には、それ自体がたいへんニュースの要素が強く、見る人にストレートに訴えるものです。

しかし、朝やお昼のワイド情報番組とかNHK特集をふくめたドキュメンタリーになると、現実をそのまま素直に写し取るだけでは、番組として放送するには難しい。とりあげられたテーマを中味の多くは、過去の出来事であったり、現実の中ではまとまりのない出来事で散らばっていたりするので、どうしても現実を再現する形で整理し、構成をたてていくことが行われます。NHK特集のすぐれたシーンもそうして撮られ、観る人に深い感動を与えています。

問題はやはり、プロデューサーやカメラマンの人間としての良心や社会生活への良識があるかどうかです。事実をゆがめたり、行き過ぎて誇張したり、また自然や人権を踏みにじるような思想の持主は、どんなに美的な感覚がすぐれ、面白いものを作り、安い制作費で要領よくまとめる人であっても、世論に大きな影響をおよぼす放送の仕事には失格者です。

今度のヤラセ事件は、起るべくして起ったのだと指摘する人もいます。

より興味があるもの、より刺激的なもの、より豪華なものが自局のチャンネルにあわせてもらえる。

視聴率がものを言う競争の世界が、これまでの番組制作の論理でした。

NHKもやはり視聴率をたいへん気にしています。NHK特集は普段10%前後の視聴率があります。12%を越えると話題となり、14~5%になればヒット作です。1%というのは全国で100万人が見てもらえる数字ですから、15%が見てもらえる数字で、1,500万人がチャンネルを合わせてくれたのです。コマーシャルでスポンサーの意向を気にしなければいけない民放では、ゴールデン・アワーに15%ぐらい稼げる番組を出さないと、その番組は消されてしまいます。昨年紅白歌合戦で都はるみをミソラと言い間違っただけで話題となった生方アナウンサーは、NHKを辞めて民放へ行き、担当したクイズ番組が9%しか稼げなくて、たちまち差し替えられたという、たいへん厳しいものです。

しかも最近は、新しい番組づくりに知恵がなくて例えば海外トラベルものがある局で受けるとすぐその真似をする。温泉めぐりがあつたると、その垂流がつくられる。ドラマの2時間ものが流行ると、他のチャンネルも追随するといった具合に、制作者に創意と工夫がないし、画一的な番組が並んで、スポンサーもそれを薦めるという過当競争の中での、低きへ流れても目先の面白いもの、興味本位なもの、刺激的なもので視聴者をひきつけようという。私はこういう番組づくりは視聴者を馬鹿にしているやり方だと思いますし、その程度のもを放送していれば視聴者がついてくると、今だに思っているのでしょうか？

しかし、最近の視聴者動向を見ても、変化が起っている。NHKの調べた世論調査によりますと、子供の視聴時間が少しずつだが減ってきている。「邪魔だからテレビを見ていなさい」と扱われる子供にもテレビ離れがおきている。また、とくに30代の男性にはテレビから離れていく人が多くなっている。世論調査では、はるかに見なくなったという人が50%、今までと変わらないというのが15%、逆に増えたというのが15%で、現代社会を動かす力をもって活動する30代からテレビが見離されつつある。彼

らは番組の多くが低俗な見せ物でヤラセを見抜いているのです。

他の世代にもやがてテレビ離れの傾向は、あらわれてくる予感がします。

視聴者の変化に気付かないで、あいかわらずの番組づくりをやっている放送のあり方がヤラセ事件の起きた背景の1つであります。

背景の2つめは、つくる方でなく、つくられる側……一般視聴者の方にヤラセを楽しむ層が増えてきたことです。三浦和義が、あれほどマスコミで騒がれたのも、事件の異常さに加えて、出たがり・演じたがりの性格が、マスコミのヤラセの体質と波調が合ってブラウン管をにぎわせていたように、大なり小なりヤラセを演じることを楽しむ人が増えているというテレビ人間の出現です。

それを反映して、あえてヤラセに挑戦する番組も出てきました。歌ったり踊ったりする視聴者参加の芸能番組でなく、たとえば高校生に人気のある「天才たけしの元気が出るテレビ」の中に学園ドラマ・シリーズがあって、原田大二郎という役者が学園直しするさすらいの助っ人という役で、全国の高校へ出かけていき、その学校の先生や生徒たちが実名で登場してドラマに参加するシリーズが好評です。また、NHKの番組でも「思いっきり中学時代」というスタジオに中学生たちが集まって話し合う番組で、「思いっきり学園ドラマ」というシリーズがあり、本物の中学生がいかに下手くそな体験風ドラマの役を演じていて、先週の「そうじ」のテーマにしたものでは、そうじ嫌い人間の実例ということで、ゴミの山にうつもれて暮らす中学生の役を演じて楽しんでいた者がいました。

こうした番組が増えていることは、歓迎していいことかどうか、もう少し様子を見てみたいと思いますが、それだけ社会全体にヤラセの風潮がまんえんして、かつての一億総評論家から一億総ヤラセ人間の時代の感さえます。テレビを選ばれた一部の層から、一般大衆へ開放していることも、ヤラセの背景のひとつと言えます。

背景の3つめは、放送の機械や道具がたいへん便利で自由になって、テクニックが発達した割には放送の本質が進歩していないことです。一昔前は放送を出すことは大変な作業で、カメラ一台動かすにも、スタジオでも中継車でも大がかりでしたし、人手がかかった。人手がかかるといことは、それだけ人間が制作現場にかいぎいして、放送が勝手にひとり歩きしなかった。それがテクニックが簡単になると、例えばテレビ朝日のヤラセ事件も、若いPDとカメラマンだけの少数スタッフが簡単に現場へ出かけて作ってしまう。何をどうやって、どう伝えるのかという放送の本質の部分に、これまで苦しんで悩んで表現してきた手段……現実を再現するための構成の努力を素通りしてしまって、安易にやっ

まっている。ハードはたしかに便利になり、現代化したけれども、ソフトは旧態然としているのです。今日の放送は、送り手のテレビ局よりも、受け手の視聴者の方が変わってきていますし、社会環境が変わっていて、新しいテレビ放送を望んでいる。NTTさんが民営化されたこの春以来、ニュー・メディアの時代に入ったのですが、放送もこれまでと違った経営形態、放送内容で取り組まねばならない。

会 長 報 告

佐藤 順治 君

1. 「ロータリーを知るために」の中の国際青少年交換プログラムについて

国際青少年交換は、各クラブ又は地区のプログラムですが、交換される青少年は15~19才の男女です。大体高校生ですが、ロータリアンの子弟で

あってもなくても良いのです。期間は1ケ年又は夏季休暇中という短期間のものもあります。人選は、各クラブに任されていますが、目的である「善意使節」ですから、健康で思想穏健、学業成績も中以上で、容姿も端正でありたいものです。費用は、往復の旅費および保険料は派遣側の負担で、滞在費、食費、学業及び小遣いは受入側が持つことになってい

ます。

- 歳末たすけあい運動の一環として
鶴岡市社会福祉協議会に1万円
NHK に1万円
思恩園 に2万円
いなほ作業所 に2万円
を本日例会終了後、幹事と2人で差し上げに行く予定です。
- 次回の例会日12月31日は定刻に開催致しますので、出席して下さい。

幹事報告

秋野 忠君

- 例会時間・場所変更のお知らせ
立川R.C
日 時 12月26日(木) 午後6時点鐘
場 所 庄内ドライブイン
鶴岡西R.C
日 時 61年1月4日(土)午後0時30分点鐘
場 所 物産館 3階ホール
酒田R.C
日 時 61年1月8日(水)午後6時30分点鐘
場 所 六 助
- 地区大会御案内
第264地区(和歌山南R.C)
日 時 61年4月4日(金)～5日(土)
会 場 和歌山市民会館
和歌山東急イン
- 会報到着
・台中港区扶輪社
・ロータリー学友の集い冊子
(R.I第253地区ロータリー財団学友会)
- 85年度下半期(86.1.1～6.30)人頭分担金及びロータリアン誌購読料について
掲題の件について、国際ロータリー中央事務局より下記の通り連絡がありましたので、ご通知申し上げます。

記

	基準額	適用相場	円 貨
人頭分担金	10ドル	202円	2,020円
ロータリアン紙購読料	4ドル	202円	808円

尚、ロータリー財団への寄付(ポール・ハリスフェロー関係も含む)も同じく1\$当たり202円が適用されます。

訪台準備委員会

塚原 初男君

訪台(来年5月)についてのアンケート調査をもとに、本例会後委員会を開きます。

教育110番

佐々木喆彦君

教育110番は来年3月迄これまで通り行い、その後は市社会福祉協議会に引き継いでもらうことで話が進んでいる。については1月11日(土)に特別委員会(会場・時間は追って連絡)を開いて打合せをします。

スマイル

- 佐々木喆彦君 }
迎田 稔君 } 銀婚式を迎えたので
坂本 耕一君 }
齋藤 昭君 } クリスマス家族会のカラオケの景品(NTTの電話機)に7番クジをあてたので
- 張 紹淵君 }
佐々木喆彦君 } クリスマス家族会に出席した子どもの作文が会報に載ったので
飯野 準治君 }
佐藤 友吉君 } クリスマス家族会の写真が会報を飾ったので
関原 亨司君 }
佐藤 英明君 } クリスマス家族会の進行がうまくいったので
藤原 享胤君 } 読売新聞掲載の将棋十段戦を参観して、その厳しい対決に感動したので
- 阿蘇 司朗君 } 昭和47年～50年製のテレビを探したところ、3台の申し出があったので
- 坂本 耕一君 } 家族会の慈善ザルで募金した35,216円をNHK歳末たすけあいに寄附いただき、また鶴岡西R.Cからも36,200円同じく寄附をいただいたので

ビジター

鶴岡西R.C 鈴木昭吾君・阿部光男君
古川 暁一君・三井盾夫君
加藤重郎左エ門君